Heart & Quality
ISO9001 認証取得

TUSA DIVING KNIFE

Tabata
TOKYO LOS ANGELES SYDNEY AMSTERDAM

ダイビングナイフ 取扱説明書

OWNER'S INSTRUCTION MANUAL

第6版

当製品をご使用になる前に、必ずこの説明書を読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。

株式会社タバタ
TUSA事業部（八潮センター）
〒340-0813　埼玉県八潮市木曽根768
☎048-996-7133　FAX.048-997-1606
大阪事業所
〒540-0012　大阪府大阪市中央区谷町2-4-5 谷町センタービル
☎06-6949-2661　FAX.06-6949-2671
九州エージェンシー
〒814-0104　福岡県福岡市城南区別府6-2-32
☎092-847-3681　FAX.092-847-3690
沖縄エージェンシー
〒904-2222　沖縄県うるま市字上江洲272-6
☎098-974-5402　FAX.098-974-5403

◎お問い合わせ先
TUSAお客様相談室　TEL.0120-989-023
（受付時間/月～金9:30～12:00、13:00～17:00）

ダイビングナイフ取説改訂 第6版

※本文の無断転載をかたくお断りします。
©Copyright 2006 Tabata Co.,Ltd. All Rights Are Reserved.

はじめに

この度は、TUSAダイビングナイフをお買い上げいただきまして、まことに有難うございます。

TUSAダイビングナイフシリーズは、切れ味と強度、耐侵食性に優れたステンレス素材をブレードに使用しています。中でも特に、FK-230に使用しているH-1ステンレス鋼は、従来品と比較して格段に優れた切れ味と強度を誇る錆びにくい素材です。また、FK-10（ミニナイフ）はノコ刃を、その他のナイフはノコ刃（セレーション）とカギ刃（ガットフック）の2種類を装備し、様々な必要状況に対応できます。

職業ダイバーはナイフの携行が義務付けられてますが、レジャーダイバーといえど、ダイビングナイフを携行して行くことは鉄則です。

安全で快適なダイビングをお楽しみ頂くためにも、まさかの時に役立つダイビングナイフを、少なくともバディのどちらかが必ず装着するようにして下さい。

当製品をご使用になる前に、必ずこの説明書を読み、取扱方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。また、不明な点がある場合には、お買上の販売店か、（株）タバタTUSAお客様相談室（TEL.0120-989-023）までお問い合わせ下さい。

取扱説明書は製品の一部です。必ずいつでも取り出して読める場所に保管し、忘れたり、分からないことが生じた場合には、何度でも読み返すように心がけて下さい。もし、他の人に当製品を貸し出すような場合には、必ずこの取扱説明書を添付してください。

ナイフを、ダイビング目的以外に携帯した場合には、銃刀法取り締まりの対象になる可能性があります。使用しない時には安全な場所に保管する等、取扱いには十分ご注意下さい。

ナイフ取説
1995/3　第1版　　2002/5　第4版
1997/2　第2版　　2002/7　第5版
1997/12　第3版　　2006/3　第6版

目次

安全のために ・・・・・・・・・・・・ 3
危険事項 ・・・・・・・・・・・・・・・ 5
警告事項 ・・・・・・・・・・・・・・・ 6
注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・ 7
各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・ 9
使用前のチェック ・・・・・・・・・・11
ナイフシースの着け方 ・・・・・・・・12
ナイフの取り出し ・・・・・・・・・・15
ナイフの使用法 ・・・・・・・・・・・16
ナイフの収納 ・・・・・・・・・・・・18
ナイフシースの外し方 ・・・・・・・・19
日常の点検と整備 ・・・・・・・・・・20
その他の注意事項 ・・・・・・・・・・24
素材品質表示 ・・・・・・・・・・・・25
製品仕様 ・・・・・・・・・・・・・・26
製品問い合わせ先 ・・・・・・・・・・26

安全のために

スクーバダイビングは、水中という非日常的な美しき世界に我々を導いてくれる、素晴しいレジャーです。
また、スクーバダイビングに対する正しい知識と、器材の正しい取扱方法を理解さえしていれば、老若男女を問わず誰でも楽しむことができる親しみやすいレジャーでもあります。

しかし、それらの知識と取扱方法を正しく習得していない場合には、最悪の場合、重大な事故につながる危険性があることもまた事実です。そして一方で、その可能性は決して高いものでないことも、ダイバーの皆様は十分ご存じのはずです。

日本スクーバ協会*では、全てのダイバーの皆様にダイビングにおける危険性とは何かをよく認識していただくためにも、取扱説明書に共通の「危険」「警告」事項を掲載するとともに、「危険」「警告」「注意」表示のそれぞれの意味を次ページのように定義いたしました。

●(株)タバタでは上記の基本的定義に、発生率、危険率等を加味して総合的に「危険」「警告」「注意」表示を掲載しています。

＊日本スクーバ協会とは、安全性の向上を第一に、ソフト及びハードの両面からダイビング業界の健全な進歩と発展を考えていくことを目的として日本国内の主要器材メーカー、商社、ウエット(ドライ)スーツメーカー、雑誌社、潜水指導団体等が集まって構成されている団体です。

危険

「危険」：それを守らないと、最悪の場合、重症事故や死亡事故につながる危険性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

警告

「警告」：それを守らないと、間接的に重症事故や死亡事故につながる可能性、もしくは、重度の物損事故が起こる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

注意

「注意」：それを守らないと、軽症程度の事故につながる可能性、もしくは、軽度の物損事故がおこる可能性のある、スクーバダイビングに対する知識とスクーバダイビング器材の取扱方法に関する情報。

危険

危険事項

●スクーバダイビングを行うにあたっては、国際的に認知されている潜水指導団体の学科講習及び実技講習を必ず受けて下さい。安全性の見地から、各団体の発行するCカード（講習修了認定証）を取得していない方の当製品の使用を禁止いたします。[但し、各指導団体のインストラクター監督下における講習中の使用は、この限りではありません。]（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

●当製品をご使用になる前に、必ず取扱説明書をよく読み、取扱い方法と危険、警告及び注意事項を完全に理解するようにして下さい。また、ご不明な点がある場合には、販売店もしくは、（株）タバタ TUSA お客様相談室（TEL.0120-989-023）にて必ず説明を受けて下さい。

●Cカードを取得している方でも、もし例えば、減圧症やエアーエンボリズム等の発生メカニズムと、それを防ぐ方法を十分に理解できてない場合は、講習を受けた指導団体のテキストブックを必ず理解できるまで読み返してください。基本的な知識のないままスクーバダイビングを行うと、重大な事故につながる可能性があります。

●スクーバダイビングを行う際には絶対に一人で潜らず、必ずバディシステムを守るようにして下さい。単独潜水は、重大な事故につながる可能性があり、大変危険です。（日本スクーバ協会共通掲載危険事項）

警告

警告事項

●スクーバダイビングを行う際には、必ず良好な健康状態で行って下さい。少しでも、寒気を感じたり、疲れていたり、気分が悪かったりする場合には、絶対に無理を避け、ダイビングを中止して下さい。（日本スクーバ協会共通掲載警告事項）

●スクーバダイビングを行う前には、アルコール類の摂取はもちろんのこと、薬品類（特に点鼻薬やかぜ薬等）の服用も避け、体調の悪い人や持病のある人は必ず事前に医師の診断を受けて下さい。（日本スクーバ協会共通掲載警告事項）

●水中拘束が起こった時には、決してあわてず、冷静に行動するように心がけて下さい。パニックを起こすことは、水中拘束そのものより危険です。まず、バディを呼んで、絡まっているものを排除してもらうようにして下さい。むやみに身体を動かして自分一人で強引に絡まっているものを外そうとしてはいけません。拘束の状況が悪化する危険性があります。（P16参照）

●ナイフをシースから取り出す際には、ケガをしないように十分にご注意下さい。（P15参照）

●ブレードに付いた錆を落としたり、研いだりする場合には、ケガをしないように十分にご注意下さい。（P24参照）

注意事項

注意

●使用する前には必ず各部を点検して下さい。ストラップの緩み、各部の作動状況等の異常や破損箇所がある場合や、少しでも疑いがある場合には使用せず、すみやかに販売店にて点検を行って下さい。パーツによっては交換（有料）可能です。

●ダイビングナイフは、ご自分では絶対に分解しないで下さい。また、規格外のパーツを取り付けたり、勝手に改造を加えることもおやめ下さい。（FK-210/220/230は、水洗いをするために分解することができます。）（P22参照）

●FK-10（ミニナイフ）には、不用意にナイフが抜けないよう、リリーススライダーに安全ロック機構が設けてあります。使用後は必ず確実にロックして下さい。

●タンクをナイフで叩く場合には、必ずナイフのツバやグリップエンド（素材によっては、グリップエンドで叩いてもよく音が出ない場合もあります。）で、叩くようにして下さい。ブレード面で叩くと刃こぼれ等が起こり、切れ味が低下する場合があります。（P18参照）

●ほとんど有り得ないことですが、もし、仕掛けてある漁網に絡まって水中拘束が起こった時には、ナイフの取扱いに十分注意を払って下さい。特に、漁網に絡まってダイビングナイフを使わざるを得ない状況になった時にはそのままにせず、ダイバーの当然の責任として、地元の地元の漁師さん、漁業協同組合等に必ず届け出るようにして下さい。一人の心無い行為によって、その場所でのダイビングが禁止され、何万人ものダイバーに迷惑がかかることも考えられます。（P17参照）

●ナイフ本体をシースに入れる際には、必ずリリースボタンがカチッと音を立てるまで差し込んで下さい。差し込みが不十分な場合には、ダイビング中にナイフ本体が脱落して紛失する可能性があります。（FK-210/220/230、FK-800=P18参照）（FK-11=P11、P18参照）

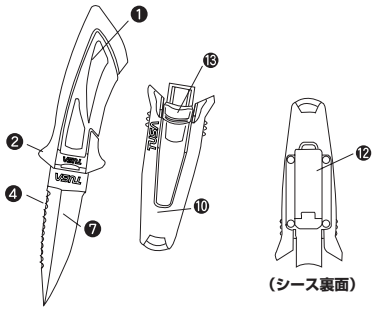
●よく乾燥させる時間がなく、ナイフとシースを別々に持ち帰るときには、必ずケガ等をしないように安全を確保して下さい。安全を確保できない時には、濡れたままでも、必ず本体をシースに収納して持ち帰るようにして下さい。（P20参照）

●時間がない場合には、ナイフ本体をよく乾燥させる手段としてヘアードライヤーを用いるのも一つの方法です。しかし、その際にはシースを遠ざけて置いておくことはもちろんのこと、グリップ部分に熱を加えてはいけません。また、シースをドライヤーで乾かすのは絶対にいけません。変形や変色の原因となることがあります。（P21参照）

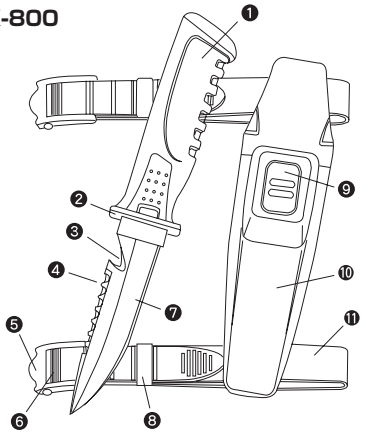
●シースやグリップに付着した頑固な汚れを落とす場合は、市販の中性洗剤をメーカー指定の希釈率（洗剤の裏面の説明に表示）にうすめて入れた水で洗い、その後洗剤部分を流水で完全に洗い落としてください。強い洗剤をそのまま用いたり、つけ置き洗いしたり、洗剤成分が少しでも残っていると、洗剤の種類によってはプラスチックの素材を侵してひび割れ等を起こさせるものがあります。また、ガソリン、シンナー、アルコール等の有機系溶剤は、変形や変色の原因となりますので絶対に使用しないで下さい。

各部の名称

FK-10（ミニナイフ）

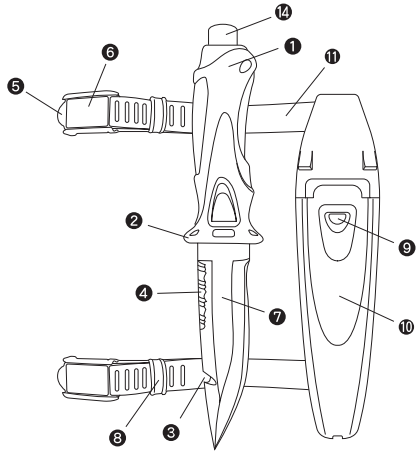


FK-800



FK-210/220/230

下記のイラストは、FK-230です。FK-210/220はブレード（❼）の形状、カギ刃（❸）とノコ刃（❹）の位置が異なります。



❶ グリップ
❷ つば
❸ カギ刃（ガットフック）
❹ ノコ刃（セレーション）
❺ バックル
❻ レバー
❼ ブレード
❽ ストラップタイ
❾ リリースボタン
❿ シース（箱）
⓫ ストラップ
⓬ ステンレスクリップ
⓭ リリーススライダー
⓮ スクリューキャップ

使用前のチェック

ダイビングを行う前には、安全のためにも、以下の項目を必ずチェックして下さい。

■ナイフをシースから取り出してリリースボタンが正常に作動するかどうか、また逆に、収納する時に確実にロックされるかどうかを確認。

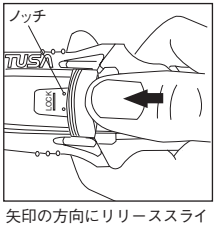
■ブレード面をチェックし、錆が付着してないか、刃に異常がないかどうかを確認。

■ストラップをチェックし、亀裂等がないかどうかを確認。

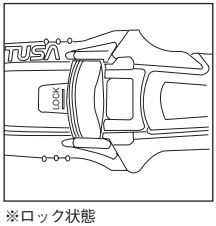
ブレード面に錆が発生している場合には、P20の「日常の点検と整備」の項をご参照の上、できるだけ錆を落としてからご使用下さい。破損や異常がみられる場合には使用せず、お買上の販売店にて点検して下さい。パーツによっては交換、修理が可能なものがあります。

FK-10 スライダー/ロックのチェック

FK-10（ミニナイフ）には、不用意にナイフが抜けないよう、リリーススライダーに安全ロック機構が設けてあります。使用後は必ず確実にロックして下さい。



矢印の方向にリリーススライダーを指で押し、ノッチを超えて固定して下さい。



※ロック状態

ナイフシースの着け方

※FK-10（ミニナイフ）の装着方法についてはP14を参照して下さい。

ストラップの通し方(FK-210/215/220/230, FK-800)

写真のように、バックルのレバーを押してストラップの先端をくぐらせ、折り返してストラップタイに通します。
この時、ストラップがねじれないようご注意下さい

写真1

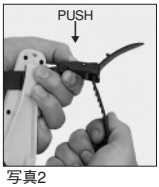


写真2

写真3

ストラップタイ

ストラップの調整 (FK-210/215/220/230, FK-800)

締める時

写真のように、矢印方向に外側のストラップを引っ張ると、締めることができます。

写真4

緩める時

バックルのレバーを押しながら、矢印方向に内側のストラップを引っ張ると、緩めることができます。

写真5

ストラップの装着(FK-210/215/220/230, FK-800)

TUSAナイフは、ワンタッチで着脱が可能なバックルシステムを採用しています。

ストラップ片端にあるバックルのフックをもう片側にあるピンに掛け外しすることによって、より簡単にナイフを着脱することができます。

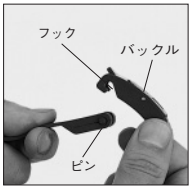
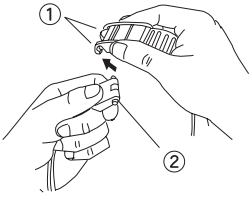


写真6
※写真は説明カットです。

[装着法] ❶

1 まず、ストラップを少し緩め、ストラップの端のピン(図中②)に近い部分を片手で少し持ちます。もう片方の手でバックルを矢印方向に押し上げて、フック(図中①)をピンから外します。



2 一般的な取り付け位置として、左右どちらかの足のふくらはぎ内側にナイフシースがくるよう、位置を整えてストラップを掛け回します。

3 片方の手でナイフのシースを持ち、もう片方の手でストラップの端のバックルを持ちます。(写真7)

ストラップごとバックルを引っ張って“カチッ”という音がするように、ストラップの端のピンにフックを引っ掛けて下さい。(写真8:1と逆の手順で行います。)

写真7

写真8

[装着法] ❷

1 まず、ストラップを足が通る程度に緩めます。

2 一般的な取り付け位置として、左右どちらかの足のふくらはぎ内側にナイフシースがくるよう位置を整えてストラップに足を通し、ストラップを締め付けます。
(写真9)(写真10)

写真9

写真10

装着完了参考写真

BCJ等への装着(FK-10)

FK-10ミニナイフは大変コンパクトなため、殆どのBCJのポケットに収納することができます。

また、シース背面のステンレスクリップによってBCJの様々な部分に取り付けることもできます。

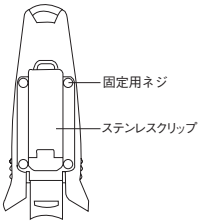
写真11

ステンレスクリップで取り付ける場合には市販のフック等でBCJのD管(リング)に引っ掛けたり、紐等で結び付けたりして、脱落による紛失を防止するようにして下さい。

※また、付属のFK-10HAホースアダプターによってゲージやレギュレーターのホースに取り付ける事もできます。

なお、シース背面のネジに合わせてBCJのブラダー（空気室）部分以外の適切な位置（BCJのポケット部分や各ストラップ類等）にネジ穴をあけ、固定用ネジによってシース自体をBCJに固定することも可能です。

しかし、位置を誤ると、BCJのブラダー（空気室）に穴をあけてしまう可能性がありますので、必ず装着前にオーラルインフレーションによってBCJをふくらませ、BCJのどこの部分に空気が入るかを充分確認した上で、ネジ穴をあけるように注意して下さい。



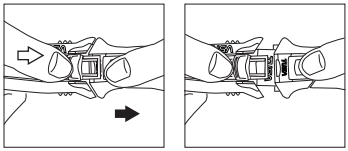
ナイフの取り出し

シースからナイフを抜く時は、リリースボタンを押しながら、グリップをしっかりと握って（写真12）、少し外側に持ち上げるようにして抜き出して下さい。（写真13）

写真12

写真13

*FK-10ミニナイフの場合はスライダーを白い矢印の方に押し込みながら、ゆっくりとナイフを引き抜いて下さい。



ナイフを引き抜く際には、怪我をしないよう十分にご注意下さい。

ナイフの使用法

水中拘束

ほとんど起きることはないのですが、全くないとは言い切れないのが水中拘束です。海藻、釣り糸、漁網等がある場所でダイビングをする時には水中拘束の起こる可能性がありますので十分ご注意下さい。

水中で何かに拘束された場合には、決して慌てず、以下のように対応して下さい。

対処法

1 とにかくまず、冷静になって下さい。落ち着いて対処さえすれば、ほとんどの水中拘束から簡単に抜け出すことができます。パニックを起こすことは、水中拘束そのものより危険です。冷静になって、どこが拘束されているのか、何に絡まっているのかを見つけるように心がけて下さい。

2 次に、バディを呼びます。バディがなかなか気付かない場合は、ナイフでタンクをカンカンと叩いて注意を促して下さい。通常、最も水中拘束になりやすいのはタンクバルブの部分ですが、この部分は自分では見ることができません。バディなら簡単に見ることができますので、まず、むやみに自分で解こうとはせず、バディに解いてもらうようにして下さい。ほとんどの水中拘束は、バディの手を借りれば簡単に解放されるはずです。

3 バディの手を借りても水中拘束から抜け出すことかできない場合には、タンクごとBCJを水中で脱いで、タンクバルブ、あるいはBCJに絡まったものを丁寧に取り除いて下さい。

4 以上の対処法を全て行っても尚､絡まったものが解けない場合には、最後の手段としてナイフの使用を考えます。但し、その取扱には十分に注意して下さい。

ナイフの使用

①ブレード

通常のナイフと同じように使用して下さい。対象物や拘束状態によっては、下記のノコ刃及びカギ刃が有効となる場合があります。

写真14

②ノコ刃（セレーション）

水に濡れたロープ類や漁網類等は固くしまっていてブレードでは切りにくく、ノコ刃が有効となる場合があります。使用法としては、のこぎりのように対象物にセレーションをあてがい、押し引きして切断します。

写真15

③カギ刃（ガットフック）

テグス等の細いロープ類をカットする時に使います。使用法としては、ガットフックの溝を対象物にあてがい強く引っ張ることによって切断します。

※FK-10ミニナイフにはカギ刃はついていません。

写真16

＊ナイフによって、ノコ刃、カギ刃の位置が異なります。

ほとんど有り得ないことですが、もし、仕掛けてある漁網にからまって水中拘束が起こった時には、ナイフの取扱いに十分注意を払って下さい。

特に、漁網にからまってダイビングナイフを使わざる得ない状況になった時にはそのままにせず、ダイバーの当然の責任として、地元の漁師さん、漁業組合等に必ず届け出るようにして下さい。

一人の心無い行為によって、その場所でのダイビングが禁止され、何万人ものダイバーに迷惑がかかることも考えられます。

ナイフでタンクを叩く場合

ダイビング中に非常事態をバディに告げたり、注意をうながしたりする際に、タンクをナイフのつばやグリップエンドで叩くと有効です。

写真17

なお、タンクをナイフで叩く場合には、必ずナイフのつばやグリップエンド（素材によってはグリップエンドで叩いてもよく音が出ない場合もあります。）で、叩くようにして下さい。ブレード面で叩くと刃こぼれ等が起こり、切れ味が低下する場合があります。

ナイフの収納

ナイフ本体をシースに収納する際には、写真18のように必ずリリースボタンがカチッと音をたててロックされるまで差し込んで下さい。

※FK-10ミニナイフも、形状は違いますが、同様にロックされるまで差し込んでください。リリーススライダーに安全ロック機構が設けてありますので、ナイフ本体を収納した後、さらにそれをロックさせてください。（P11参照）

写真18

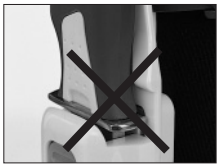


写真19

差し込み部分が不十分な場合には、ダイビング中にナイフ本体が脱落して紛失する可能性がありますので、差し込んだ後、グリップを握ってナイフ本体を引き出すように動かして確認して下さい。ロックされていれば、ナイフ本体がほとんど動きません。

もし、動くようであれば、差し込みが不十分ですので、グリップを押し込んでロックし直すか、一旦ナイフ本体を引き抜いて、もう一度シースに収納し直して下さい。

ナイフシースの外し方

基本的に、着ける時と逆の手順で行います。

[外し方]①
(FK-210/215/220/230, FK-800)
ストラップの端のピンに近い部分を片手で持ち、もう片方の手でバックルを矢印方向に押し上げて、フックをピンから外します。(P13：ストラップの［装着法①］参照)

写真20

[外し方]②（FK-210/215/220/230, FK-800）
バックルのレバーを押しながら、内側のストラップを引いてストラップを緩め（P12:“ストラップを緩める時”参照)、シースごと足から引き抜いて下さい。

日常の点検と整備、保管

TUSAダイビングナイフは抜群の切れ味と高強度を誇るH-1ステンレス鋼、304鋼、420Jステンレス鋼を素材に使用したナイフです。

しかし、特に海の中という特殊な使用状況下では、塩分の付着が避けられない以上、メンテナンスを怠ると錆の発生は防げません。使用後の水洗いと、簡単な防錆作業を必ず行うように心がけて下さい。

ダイビング終了後

まず、錆を発生させないためには、とにかく水洗いをすることが肝心です。使用後はナイフ本体とシースをそれぞれ真水（水道の流水等）で洗い、付着した塩分や汚れをよく洗い落とすようにします。

時間があれば、ナイフをシースに収めない状態で直射日光を避けて、それぞれよく乾燥させてからシースに収納して下さい。よく乾燥させないままシースに入れると、錆の発生を招きますので、時間がない場合には、安全が確保されていることを前提に、ナイフ本体とシースを分けて持ち帰ることをおすすめします。

よく乾燥させる時間がなく、ナイフとシースを別々に持ち帰る時には、必ず怪我等をしないように安全を確保して下さい。安全を確保できない時には、濡れたままでも、必ずナイフ本体をシースに収納して持ち帰るようにして下さい。

帰宅後

❶帰宅後は、洗面所などで、もう一度よく水洗いをして下さい。できれば、ナイフとシースをしばらくきれいな水のなかに浸して、完全に塩抜きしてから、更に水洗いをすることをお勧めします。

写真21

❷水洗い後は、乾いた布等で全体的に水分を拭き取り、直射日光を避けて、風通しの良いところで陰干しをして下さい。

時間がない場合には、ナイフ本体をよく乾燥させる手段としてヘアードライヤーを使用するのも一つの方法です。しかし、その際にはシースを遠ざけて置いておくことはもちろんのこと、グリップ部分に熱を加えてはいけません。また、間違ってもシースをドライヤーで乾かしてはいけません。変形や変色の原因となることがあります。

錆を防ぐために

完全に乾燥させたら、できればブレード部分にスプレーオイルを吹き付け、軽く拭いておきます。(写真22)

しばらく使用しないときには、ナイフ本体をアルミホイルやビニールラップ、油紙等で包み、シースとは別々に保管しておきます。(写真23)[※シース内に塩分が残る可能性があるため]

写真22

写真23

錆が発生したら

予防が治療にまさるのは、なにも人間の病気に限ったことではありません。ナイフも同じことで、前項のように錆の発生そのものを抑えることが一番です。しかし、もし錆が発生してしまったら、以下の要領で早めに処置を施して下さい。

①市販の金属研磨剤を塗って、錆を磨き落とします。

②金属研磨剤がなければ、適当な木片に布を巻き、台所用のクレンザーを使って下さい。ただし、ブレード(刃の部分)は磨きすぎると、切れ味が低下する恐れがあるため、注意して下さい。

③厚い錆の場合には、市販のサンドペーパーや、ヤスリで錆を落とし、砥石やインスタントシャープナー等でブレードを研ぐ必要があります。

以上の処置をしても尚残るような根深い錆の場合は、新しいナイフを購入する必要があります。

ブレードの錆を落としたり、研いだりする場合には、ケガをしないよう十分に注意して下さい。

FK-210/215/220/230の分解・組み立て方法

FK-210/220/230は分解をして、各部品ごとに水洗いやメンテナンスをすることができます。

■分解・組み立て方法

①ブレード側が上になるように斜めに傾けて、ナイフのグリップをしっかりと持ち、スクリューキャップを矢印の方向に回しながら取り外します。(写真24)

写真24

②ブレード側が上になるように斜めにしたまま、フックスクリューを矢印の方に傾けながら取り外します。（写真25）

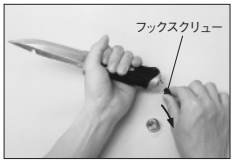


写真25

③ブレードの中心を指で挟むように持って、グリップを取り外します。（写真26）

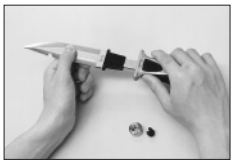


写真26

④最後にブレードリテーナーを取り外します。（写真27）

写真27

⑤組みたて方法は、①～④の逆の手順です。

※分解後に、再度組み立てる場合は、スクリューキャップに、ナイフのベルト部分などのすべり止めを巻いて、充分に締めつけてください。不充分な場合は、使用中に緩んで脱落する可能性があります。

《警告》

●フックスクリューを取り外す（取り付ける）ときは、必ずブレード側が上になるように斜めに傾けてください。ブレード側が下になっていると、フックスクリューを外した（取り付ける）ときに、グリップからブレードがすべり落ちて大変危険です。

●ナイフの分解・組みたてをする際には、けがをしないよう十分にご注意下さい。写真は説明用なので、素手でブレード部分を持っていますが、実際にはハンカチやタオルでくるんですることをおすすめします。

●分解作業は、必ず台や机の上で行ってください。

●塩ガミ等で分解しにくい場合は、力を込めず、かるく叩くなどしてから分解を行ってください。

その他の注意事項

■直射日光下や、炎天下の車内やトランク内等の、極端に熱い場所に放置しないで下さい。熱や紫外線の影響によって、破損したり、素材寿命が縮まったりすることがあります。

■特にボートダイビングの際等に、ナイフをデッキ上に放置して、足で踏んだりすることのないようご注意下さい。
シースが破損したり、怪我をする可能性があります。

■航空機に搭乗する際には、ナイフは必ず荷物扱いにして下さい。機内に持ち込むことは出来ません。

■シースやグリップに付着した頑固な汚れを落とす場合には、市販の中性洗剤をメーカー指定の希釈率（洗剤の裏面の説明に表示）にうすめて入れた水で洗い、その後洗剤部分を流水で完全に洗い落としてください。強い洗剤をそのまま用いたり、つけ置き洗いをしたり、洗剤成分が少しでも残っていると、洗剤の種類によってはプラスチックの素材を侵してひび割れ等を起こさせるものがあります。また、ガソリン、シンナー、アルコール等の有機系溶剤は、変形や変色の原因となるので絶対に使用しないで下さい。

■ナイフを、ダイビング目的以外に携帯した場合には、銃刀法取り締まりの対象になる可能性があります。使用しない時には安全な場所に保管する等、取扱いには十分ご注意下さい。

素材品質表示

TUSAダイビングナイフの主要パーツの素材名と、その素材を採用した理由は以下の通りです。

	主要パーツ名	素材名	素材の特徴及び採用理由
FK-210/215/220/230	ブレード	ステンレス420J2鋼（FK-210/220） H-1ステンレス鋼（FK-230）	強度、耐食性に優れる。
	グリップ	ABS樹脂/エストラマー樹脂	耐熱性、耐老化性に優れる。
	シース	ポリカーボネート	耐衝撃性、耐候性に優れる。
	ストラップ	天然ゴム/合成ゴム	耐オゾン性、耐候性に優れる。
	アジャストバックル	ABS樹脂	耐衝撃性、耐熱性に優れる。
FK-800	ブレード	ステンレス420J1鋼	強度、耐食性に優れる。
	グリップ	エストラマー樹脂	耐熱性、耐老化性に優れる。
	シース	ポリカーボネート	耐衝撃性、耐候性に優れる。
	ストラップ	天然ゴム/合成ゴム	耐オゾン性、耐候性に優れる。
	アジャストバックル	ABS樹脂	耐衝撃性、耐熱性に優れる。
FK-10	ブレード ステンレスクリップ	ステンレス304鋼	強度、耐食性に優れる。
	グリップ	エストラマー樹脂	耐熱性、耐老化性に優れる。
	シース スライダー	ポリアセタール	耐衝撃性、耐候性に優れる。

製品仕様

品 番	全長(mm)	全幅(mm)	厚さ(mm)	重 量(g)
FK-210	286	51	42	360
FK-215	286	51	42	376
FK-220	286	51	42	378
FK-230	286	51	42	378
FK-800	247	48	35.5	285
FK-10	168	36	18	75

※全長、全幅、厚さはナイフをシースに入れた状態で計測

製品問い合わせ先

製品の使用法、取扱説明書の内容についてご不明な点がありましたら、お買上の販売店、もしくは、下記までお問い合わせ下さい。

株式会社タバタ TUSAお客様相談室
〒340-0813 埼玉県八潮市木曽根768
TEL.0120-989-023